

こども教育学科・教授 山田秀江先生が 「第72回滋賀県美術教育研究大会 栗東大会」 で講演されました。

▼会場(栗東文化芸術会館 さくら)の様子



▼説明される山田秀江先生



令和5年8月24日(木)、本学の山田秀江先生が「第72回滋賀県美術教育研究大会 栗東大会」
(於：栗東文化芸術会館 さくら)にて講演を行いました。

この講演は「保幼小中をつなぐ学びと育ちの連続性～造形遊びから美術教育へ～」の題目に、遊びの中の学びの過程やプロジェクト型保育の説明を通して、乳幼児期の子どもには適切な環境を与え、その中で子どもが主体的に活動できるよう援助することで認知能力や非認知能力を身につけることができることを、具体的にお話しされました。お話の中で、

①認知能力では「創造的想像力」が育つような指導が重要だということ

②非認知能力とは、「目標を達成するための力」「他人とつきあう力」「感情を調整する力」であり、それらを身につけることがその後の人生においてよい影響をもたらすということ
を説明されました。

また、長谷川義史氏の絵本「おおにせんせい」をもとに、「美術教育は、子どもが学ぶ喜びを感じることができる科目であり、一人ひとり違った、その子なりの本気の表現を認め褒めることで子どもが自信を持ち、他の教科や生活の中でもそれが発揮される」という、大西先生の実践を読み解き、説明されました。その内容を踏まえ、美術教育の在り方についての一つの考えをお話されました。

講演に参加された小学校や中学校の先生方からは「**幼児教育の理解が深まり、連携の重要性を感じた**」や「**自分の美術教育に参考にしたい**」などのお声がありました。また、保・幼の先生からは「**日々自分たちが行ってきた保育を具現化、言語化してもらったことで実践が明確になり、本日学んだことを明日からの保育実践に活かしたい**」とのお声がありました。